

6 絵本を通して子どもたちと「戦争と平和」について  
 考えていきたい (りぷりんと・中央区 南部悠紀子 77歳)

『へいわってすてきだね』いかがでしたか。これから、おばあさんの子どもの時代のお話をします。

戦後70年の昨年、私が読み聞かせに行っている小学校の図書先生から「一年生に読んで欲しい」と言って手渡されたのがこの絵本でした。



『へいわってすてきだね』

安里有生/詩 長谷川義史/画  
 ブロンズ新社

へいわってなにかな。ぼくは、かんがえたよ。ねこがわらう。おなかがいっぱい。やぎがのんびりある。ちょうめいそうがたくさんはえ、よなぐにうまが、ヒヒーンとなく。みんなのころから、へいわがうまれるんだね。これからも、ずっとへいわがつくように、ぼくも、ぼくのぼくのできることからがんばるよ。(出版社HPより)

● 発行: 2014年6月  
 ● I S B N: 978-4-89309-587-9

「沖縄」に住む、当時小学一年生の安里有生君の書いた詩を、人気絵本作家の長谷川義史さんが、今の日本の子どもたちに、いや、全世界の人々に一人でも多く伝えたいと思い、書いたものでした。

私はこの詩を読んで、あの太平洋戦争末期、唯一地上戦が行われた「沖縄戦」を思い出しました。一般住民を巻き込み、20万余りの尊い命と、財産や文化財、自然がことごとく奪われ、まさに地獄そのものでした。

平和ってどんなことでしょう——この絵本の詩から引用させてもらいます。

「へいわってなにかな。ぼくはかんがえたよ。おともたちとなかよし。かぞくがげんき。えがおであそぶ。けんかをしてもすくなかお。へいわっていいね。へいわってうれしいね。みんなのころからへいわがうまれるんだね。ああ、ぼくはへいわなときにうまれてよかったよ。このへいわがずっとつづいてほしい。みんなのえがおがずっとつづいてほしい。……」

このように何気ない日常が平和であるというところ、この幸せな日本がずっと続くよう願わずにはいられません。今の子どもたちは、楽しく遊べたり勉強

したりすることを当たり前のように思っていることでしょう。しかし、戦時中は食べられるものも思いっきり食べられず、外でのびのびと遊ぶことも出来なかったのです。

大人の男性で元気な人は、次々と兵隊にとられ、働き手がいなくなりました。食糧不足の中、子どもたちも小・中学生は学校に集まり、畑に出かけて行って、芋やかぼちゃなどを作っていました。少し大きい子どもは、学徒動員で工場に行つて働き、勉強など出来る状況ではなかったのです。

戦後70年を超えた今こそ、戦争を経験したシニア世代の私たちが「戦争の残酷さ、恐ろしさ」を子どもたちに伝えていかなければならないと強く思っています。

幸いにも今「戦争と平和」を考える絵本がたくさん出版されています。実際にあの太平洋戦争でどんなことが行われたか、絵本を通して事実を知ることが出来ます。小学校で読み聞かせをするチャンスがきたとき、知らなかった事実を知ることができて、私も勉強になりました。

そのうちの一つ、絵本『かわいそうなぞう』で、私は初めて戦時中に東京の上野動物園で行われていた事実を知りました。東京に爆弾が落ちてきて動物園のぞうやライオンなどが街に逃げ出したら大変なことになると、仕方なく動物を殺すことになったのです。それはとてもつらいことでした。今まで育ててきた動物たちは、自分の子ども

もと同じようなもの。動物園の飼育係の人たちは、なんとか動物を助けられないかと悩みました。しかし、どうすることもできませんでした。その象は餌をもらえず、とうとう死んでいったのです。戦争さえなければ、こんなことは起こらなかったのです。

日本は、戦後の70年間、一度も戦争をしていません。しかし、今も世界ではあちこちで戦争が起こっています。そして、何の罪もない人々が殺されています。平和を守っていくことは、私たち大人の責務です。これからもずっと戦争のない平和な日本、いや、世界でありますようにと、願わずにはいられません。

そのためにも私は、今後も読み聞かせボランティアとして、絵本を通して子どもたちと「戦争と平和」について一緒に考えていきたいと思っています。



絵本に触れることは自分の勉強にもなる(筆者)